

目次

編集方針・メディア活用の考え方	1
トップメッセージ	3
明治安田生命の事業とCSR	5

ハイライト すべてのステークホルダーのみなさまと、 いっそう確かな「絆」を結んでいくために	7
--	---



特集① 「明治安田チャレンジプログラム」の進捗 お客さま満足度の向上を 徹底追求していくために	9
--	---

特集② 子どもの健全育成に貢献する活動 地域に根ざした 明治安田生命らしい活動を	17
---	----

お客さまとの絆 23	
『「お客さまの声」白書』の発行	23
「お客さまの声推進諮問会議」の継続的な開催	24
「消費者専門アドバイス制度」の運用を開始	24
入院医療費の自己負担にも備える保険「明日のミカタ」	25
「確かなお支払い」を確保するための支払管理態勢の整備	25
法人のお客さまへのサービス	26

ガバナンス ～お客さまとの絆のために～ 27	
経営に関する重要事項を審議	27
わかりやすさに配慮したディスクロージャー資料の発行	28
BCP(事業継続計画)の取組み	28

コンプライアンス ～お客さまとの絆のために～ 29	
コンプライアンス推進体制	29
コンプライアンス推進諮問会議	30
個人情報の保護・管理	30

社会・環境との絆 31	
地球温暖化の防止	31
障がいのある方々の舞台芸術の支援	32
各所属の社会貢献活動事例	32

従業員との絆 33	
「従業員意識調査」「MOTミーティング」の実施	33
従業員の出産・育児、介護の支援	34
女性の管理職登用の推進	34

第三者意見	35
CSRウェブサイトのご案内	36

編集方針

明治安田生命は、透明性の高い「社会に開かれた会社」をめざして積極的な情報開示に努めています。その一環として、2006年度から「CSR報告書」を発行し、お客さまや社会との「絆」を深めるためのCSRへの取組みについてご報告しています。

本報告書の前半では、お客さま満足度の向上を徹底追求する「明治安田チャレンジプログラム」の進捗と、子どもの健全育成に貢献する活動について特集しています。

後半では、「CSR経営宣言」の5領域（お客さまとの絆、ガバナンス、コンプライアンス、お客さまが暮らす社会・環境との絆、従業員との絆）ごとにそれぞれの章を設けて、各領域の活動をご報告しています。

● **報告対象組織**
明治安田生命保険相互会社を対象としていますが、一部、子会社等の取組みについてもご報告しています。

● **報告対象期間**
2008年度(2008年4月1日～2009年3月31日)と、2009年度上半期(2009年4月1日～9月30日)を対象としていますが、一部、それ以前の事実や、本報告書発行日直前の内容についてもご報告しています。

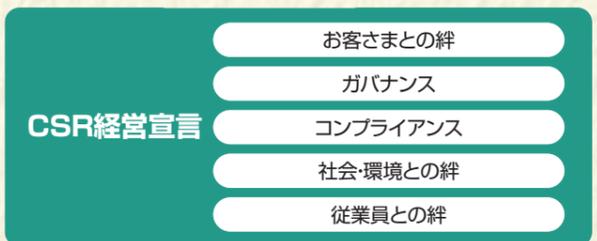
● **発行時期**
2009年12月
(前回は2008年12月。次回は2010年12月を予定)

● **参考にしたガイドライン**
GRI(Global Reporting Initiative)
「サステナビリティレポートガイドライン2006(G3)」

注)GRIガイドライン対照表はCSRウェブサイトに掲載しています。

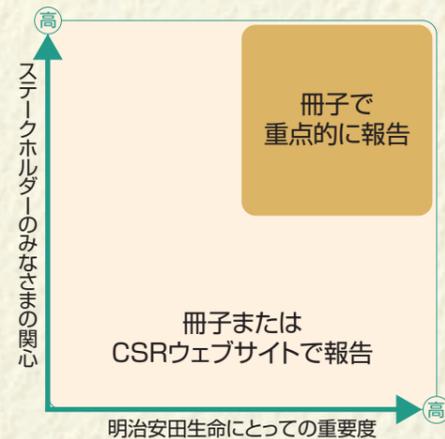
メディア活用の考え方

STEP 1
「CSR経営宣言」に基づいて「明治安田生命が報告すべきこと」について議論しました。当社では、CSRとは「社会からの負託、果たすべき役割を正しく認識し、それに応えようとする企業活動」であると考えています。CSR関連情報の開示に際して、「CSR経営宣言」の内容に照らして、報告すべきことについて議論しています。



STEP 2
社会の関心事項・要請事項を、ステークホルダーのみなさまとの対話などから確認しました。「CSR報告書2009」の編集にあたって、ステークホルダーのみなさまから寄せられる声などに基づいて、社会の関心事項・要請事項を確認しました。

STEP 3
①②の結果をふまえて「重要性を重視した冊子」「網羅性を重視したCSRウェブサイト」の二つのメディアで活動をご報告します。ステークホルダーのみなさまの声に、よりの確に応える情報開示をめざして、2009年度は、ステークホルダーのみなさまと当社にとって重要性の高い事項を報告する冊子と、CSRにかかわる取組みを網羅的に報告するCSRウェブサイトという二つのメディアで報告しています。



将来に関する予想・予測・計画について

本報告書には、明治安田生命保険相互会社の過去の事実だけでなく、将来に関する予想・予測・計画も記載しています。これらの予想・予測・計画は、記述した時点で入手できた情報に基づいた仮定ないし判断であり、不確実性を含んでいます。したがって、将来の事業活動の結果や将来に起こる事象が本報告書に記載した予想・予測・計画とは異なったものとなる可能性があります。